

令和2年度博物館施設評価集計シート（最終）

施設名 近代美術館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	249,000	人	未達	教育振興基本計画に基づく年度別利用者目標
				73,243	人		
2	利用状況	常設展観覧者	常設展観覧者数	40,760	人	未達	基準値:40,760人 目標参考値:40,760人 前年度4期は臨時休館のため再開できず。1期(臨時休館のため6/2-7/12のみ開催):2,589人、2期(7/18-10/18):8,054人、3期(臨時休館のため10/24-12/23のみ開催):7,447人、4期(臨時休館のため3/23-3/31のみ開催):678人
				18,768	人		
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	2,030	件	未達	基準値:2,025件 目標参考値:2,030件
				1,689	件		
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	59,767,000	円	未達	当該年度予算計上額
				25,826,583	円		

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	企画展	企画展観覧者	企画展の観覧者数	32,000	人	未達	実施予定の企画展の予算積算人数 New Photographic Objects/7,488人 MEDE SUWARU /5,560人、 上田薫/6,185人、4つの水紋/697人
				19,930	人		
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	48	校	未達	令和元年度実績 4~8月受入中止。9月2校、10月6校、11月4校、12月1校実施。1、2月中止。3月0校。
				13	校		
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	49	校	未達	令和元年度実績 4~6月0校、7月2校、8月2校、9月2校、10月3校、11月10校、12月4校、 1月7校、2月8校、3月1校実施。
				39	校		
4	子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら開催回数及び参加人数	39回 3221人	回	未達	令和元年度実績 10月まで中止。11、12月開催。1月~3月中止。
				4回 119人	回		
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	457	件	未達	令和元年度実績
				279	件		
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	884,573	件	未達	令和元年度実績
				644,535	件		
7	広報	広報成果	広報媒体での掲載件数	249	件	未達	令和元年度実績
				227	件		
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	80	%	達成	1期は臨時休館の期間が重なり、アンケートが実施できず。2期80%、3期92%、4期90%
				87	%		
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80	%	達成	「New Photographic Objects」96%、「MEDE SUWARU」97%、 「上田薫」97%、「4つの水紋」100%
				98	%		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 企画展の開催 <ul style="list-style-type: none"> 1 「New Photo Graphic Objects :写真と映像の物質性」 当初予定 4/ 4～5/17 変更後 6/ 2～9/ 6 2 「コレクション 4つの水紋」 当初予定 7/ 4～9/ 6 変更後 1/23～3/21→再変更(会期末定) 3 「桃源郷通行証」 当初予定 9/19～11/13 令和4年度以降へ 代替開催 「MEDE SUWARU - 今日みられる椅子」 9/26～11/3 4 「上田 薫」 当初予定どおり開催 11/14～1/11→12/23で終了(12/24より臨時休館) 5 「美男におわす」 当初予定 1/23～3/14 令和3年度へ(9/23～11/3) 代替開催 「コレクション-4つの水紋」 3/23～(5/16) 6 「ボイス+パレルモ展」 当初予定 3/27～(5/16) 令和3年度へ(7/10～9/5) 常設展の開催 第1期 4/25～(予定 変更後) 6/2～7/12、第2期 7/18～10/18、第3期10/24～2/7→12/23で終了(12/24より臨時休館)、第4期3/23～4/18(3月22日まで臨時休館) 教育普及事業の実施 学校の団体利用、鑑賞授業、ワークショップ「MOMASのとびら」
事業の実施状況と過程	<ul style="list-style-type: none"> 企画展の開催 1 「New Photographic Objects」は、コロナ禍により4～5月の会期を 6～9月に変更した。観覧者数の減少が懸念されたが、7,500人近い観覧者があり、有料率も高かった。コロナ禍による企画展予定の大幅見直しのために急遽、代替案として「MEDE SUWARU」を企画した。通常の半分のスペースでも無料としたが、約5,500人の観覧者があった。コロナ禍により座っていただくことはできなかったが、その分、「目で座る」「愛でる」という意図が受け入れられ、大変好評であった。当館の収蔵品の中で最も人気がある作品が、上田薫の絵画である。「上田薫」は臨時休館により会期の3/4ほどで閉幕となったが、6,000人以上の観覧者があり、期待以上の人気であった。会期を夏から1～3月に変更した「4つの水紋」は、再度の緊急事態宣言発出により会期を3～5月に変更し年度末に開幕した。当館の収集・展示活動の軸をふまえたうえで、コレクションを読み解く新たな視点を提示する意欲的な展示で、開幕当初の観客の満足度は非常に高い。 常設展の開催 臨時休館が5月末まで続いたため、4/19までの予定であった前年度のMOMASコレクション第4期は再開できず、MOMASコレクション第1期も会期を短縮しての開催となった。また、MOMASコレクション第2期に開催予定であった「アーティスト・プロジェクト#2.05スクリプカリウ落合安奈」は、外出自粛期間と準備が重なったため、会期を延期し、今年度の第3期に開催することになった。ただし、再度の臨時休館のため、第3期のMOMASコレクションと「アーティスト・プロジェクト」は、10/24-12/23の期間しか開催できなかったのに加え、MOMASコレクション第4期も3月23日からの開幕になった。コロナ禍の影響で、観覧者数は前年度の5割程度であったが、開催日数が178日と少なく1日当たりの入場者数は前年度の8割程度である。 教育普及事業 博学連携においては、コロナ禍の影響で美術館側、学校側どちらにとっても連携が難しい期間が続いたが、夏季以降連携を希望する学校は多かった。人数や活動内容の制限は続いたが、できる範囲で実施した。臨時休館中は団体案内の予定を授業協力で代えて連携を希望される学校が大多数であった。 館内の子供向け事業は感染対策を講じた実施方法を検討し、11月より再開したが、年度後半も臨時休館となり、年間4回のみの実施となった。実施についての問い合わせは多く、ワークショップ再開に期待を寄せていただいている。 その他の普及事業も今年度は中止せざるを得ないものが多かったが、来年度については状況に応じて判断することを前提に、感染対策を講じた方法での実施を検討している。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策としての休館、入館に伴う手続(マスク着用、消毒、連絡先の記入)などの影響で数値目標は軒並み「未達」となった。 令和2年度内だけでも約5か月(令和2年2月29日～2年5月31日、2年12月24日～3年3月21日)に渡る休館を始めとした新型コロナウイルス感染症の流行の影響が展覧会の開催の大きな妨げとなった。 特に他館との連携により実施する企画展に関しては令和元年度中からの流行により、準備作業を進めることができず抜本的な計画変更を余儀なくされた。 結果として「New Photo Graphic Objects :写真と映像の物質性」は2か月、「コレクション 4つの水紋」は再延期して9か月の延期、「上田薫」は予定どおりの期日に開催できたものの途中で打ち切り、「桃源郷通行証」、「美男におわす」、「ボイス+パレルモ展」は2年度中の開催が不可能となった。 そのような中、収蔵品を展示する「MEDE SUWARU - 今日みられる椅子」を急遽企画し代替展として開催するなど開催計画を再編し、県展中止もあり企画展開催日162日を確保した。休館中を除きほぼ展示替え期間以外は企画展を開催することができた。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	23人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	191,220,000円	職員一人あたりの県民人口	319,208人
収蔵資料総点数 (R2.3末現在)	3,753点	事業経費 (上記の内数)	142,855,000円	利用者一人あたりのコスト (令和元年度)	1,001.6円
令和元年度 収集資料点数	26点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	59,767,000円 (30,738,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和元年度)	2.87%

(注) 令和2年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,341,794人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	美術資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	2月16日に資料選考評価委員会を開催予定
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	1月に実施済
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収集作品の保存管理要領
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B	予算不足のため、作品修復が滞っている
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	収集作品の保存管理要領
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	同上
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B	予算不足のため、作品修復が滞っている
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	美術資料取扱規程
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	関係例規集をWeb公開できていない。
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション、企画展での活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	近代美術館所蔵作品館外貸出基準
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	近代美術館条例
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	収蔵品データベース
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵品データベース、解説アプリ
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	定期的に環境調査を実施
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	展示替え毎に、解説アプリ
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示替え毎に更新。
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍で実施できず。11月のサンデートークを実施。
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	B	1期は臨時休館が重なり、アンケートを実施できず。その他の時期は実施
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	対応可能なものは実施
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP。ポスター
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	はがき、電話、FAX、電子申請等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子供(未就学児を含む)
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアスタッフの配置、注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	B	アンケートの集計・分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	コロナ禍で閉室中の資料閲覧室を11月に再開。
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習及びインターンシップ受け入れ要綱
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア、イベント対応等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP及び年報等での活動報告・予告
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	B	コロナ禍で実施できず。12月に1度だけ実施。
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	B	地域の商店会、自治会イベント等
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	事業および個別
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	単発の助成金のみ
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	資料保存、教育普及
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	専門研修に参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	巡回展の共同企画
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	展示、図録、ギャラリートークなど
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	レファレンス等情報提供
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	毎年度策定
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度更新
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	11月に実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	毎年度実施
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子3台 ベビーカー5台

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	点字ブロック、エレベーター、自動ドア等
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	エントランスに設置
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	サインの一部英文標記
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00~17:30
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	バス駐車場として公園路を利用
施設の活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	各種利用要領、利用案内等
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室、講堂等
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室、講座室等
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	B	コロナ感染防止の観点で中止が多かった
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	B	コロナ感染防止の観点で中止が多かった

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

評価基準	
完了または順調に進捗している問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
展示事業の実施	① 展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	B	常設1期ではアンケートが実施できず。
	② 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	
	③ 企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	A	関連イベントの実施
	④ 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
	⑤ 外部資金の導入に努力しているか	A	遠山記念館芸術・学術研究等助成金(関根伸夫資料関連)、機材協力(企画展)
教育普及及び連携・支援活動の実施	① 収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍で実施できず。11月のみサンデートークを実施
	② 美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	B	イベント実施可能な期間はMOMASのとびら等実施
	③ 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	A	授業、部活動、インターンの受け入れ
	④ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	B	学校、教育事務所を対象に実施。教員美術講座は今年度中止。
	⑤ 館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか	A	複製画等による鑑賞授業の実施
	⑥ 教育普及用資料の貸し出しを実施しているか	A	複製画、鑑賞キット、アートカードの貸出
	⑦ 大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか	A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)
地域・他機関との交流・協力事業の実施	① 地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか	B	地元商店街、自治会との事業協力
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	A	企画展・ボイス+パレルモ展

令和2年度 博物館施設 総合評価

施設名 近代美術館

		達成	未達	
全館共通	数値目標による評価	0	4	
各館独自	数値目標による評価	2	7	

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	78	12	
各館独自	チェックリストによる評価	9	5	

自己評価総括

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 4月、5月の2か月間休館し再開後は氏名、電話番号の記入、検温を求め、なおかつ再開当初は公園利用者のトイレ使用や休憩目的の入館を断るなど、入館のハードルを上げざるをえなかった。その結果入館者は年間で前年度の1/3程度となった。なお、開館日1日当たりでは半分強であった。同じ対前年度比較で企画展入場者数は6割強であったが、1日当たりでは8割強、常設展も年間入場者は5割強、1日当りは約8割であった。 コロナ禍の人流の抑制要請で文化施設へのアクセスにも低下影響が避けられないが、企画展・常設展の1日当たり入場者数は対前年度2割減程度にとどまり底堅いニーズがあると考えられる。 教育普及事業では、ワークショップ「MOMASのとびら」は11月に内容や定員を制限して再開し、11・12月で計4回実施した。参加者からは満足した、また参加したいという旨の感想が挙がった。学校との連携は、年度前半は学校側が慎重な姿勢であり低調であったが、秋以降、授業協力の依頼が増した。団体利用は予定していた日時が臨時休館の時期と重なり中止したところも多かったが、次年度の実施に向けて検討を進めるなど、前向きな連携ができた。しかし、12月24日から3月21日の再度の休館でまた軒並み中止という事態になった。 一般展示室は6月までの休館期間以外にも利用者による展覧会自体の開催自粛の影響で利用が激減し、その傾向は完全には収まることはなかった。そのような中で12月24日から再休館となり、予約済みの一般展示室の利用を認めることとしたが、やはり主催団体からの利用辞退が多くあった。 今年度から新システムを導入し観覧料支払いに交通系カードとクレジットカードの使用を可能にした。、結果として感染防止対策にもつながるキャッシュレス化を進展させることができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数を始めとして、観覧者数、事業実施数などほぼすべての実績値が低下している。 4月から8月は教育普及事業、学芸員やボランティアによる作品解説、資料閲覧室でのサービスなどの事業をほとんど休止した。9月の学校の団体利用再開後、教育普及事業、学芸員による解説、資料閲覧室でのサービスなどの事業を安全を最優先としたうえで新型コロナ感染防止対策を講じ、可能な範囲で再開した。ボランティアについては研修会を実施した。しかし、12月からの再休館の事態を受け、また多くを停止している状況になっており今後の再開に向けて検討していく必要がある。
対 応 の 方 向	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数増加のために感染拡大防止策を中止・緩和することは当面難しい。 常設展・企画展については根強い観覧ニーズの維持、拡大を目指し企画、実施、広報に努める。 その他の各事業について感染の拡大・縮小状況や社会の受け止め方に十分留意した上で、感染防止対策を最大限実施し各事業ごとに再開を図る。 ボランティア事業が実施できない状況が続いているため、ボランティア・スタッフのモチベーションを保つため、適宜、研修会などを開催していく。 一般展示室については、館内での感染防止(利用人数の制限、控室の分散等)の徹底を実施し、利用者の安心感を高める。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各 館 協 議 会 委 員 会 の 意 見	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍において、パラダイムシフトという大袈裟かもしれないが、オンラインの活用について大きく変わったと感じている。民間企業では、ほとんどの会議をオンラインで行うし、事務系の業務もテレワークで対応している。大学でも授業がオンラインで行われている。オンラインになることのメリットはいろいろある。コロナ禍が終わっても、オンラインとリアルの併用というのは新しい革新のキーになると考えているので、積極的に取り組んでもらえればと思う。・ B評価のものについては、小さな工夫を積み重ねるなどして対応してほしい。オンラインでできるものはオンラインを活用し、ダイナミックに感じたり、触れたり、同じ空間でしか味わえないものは美術館の良さを活用するなど、上手くバランスを取りながら、ニーズに応えてもらえればと思う。・ 館の普及活動について、一般の人たちや館に来られない人たちに、どうやってアピールしていくかが大切だと思う。今後、世の中では5Kの普及が進んでいくと思われるが、そのような映像技術の発展も踏まえ、どのように考えているのか。(椅子のコレクションをオンラインで発信する取り組みを行った。ノウハウを蓄積し来館できない人に発信していくことを模索している。来館していただいた鑑賞とオンラインの両方を視野に入れバランスよく取り組んでいきたい。)・ 作品の修復については毎年B評価となっている。予算残を修復に回すような弾力的な運用ができないのか。(費目の違いや修復に要する期間の問題があり難しい。助成金などの獲得に努めたい。)・ 修復や調査研究の項目がBになっているが、科研費等外部資金を積極的に活用するとよい。(科研費は制度上困難な面があるが模索していきたい。その他の民間の基金等については積極的に獲得を図る。)・ ほとんどA評価であり、よく取り組まれていると感じている。結果も公表するとのこと、お客様に安心して来ていただきたいという発信になるのかと考えている。ただ、評価の目的は効率的な運営と活動水準の向上とのことなので、A評価ばかりになるとそれで終わりにになってしまうのではないかと。(A評価は順調に進捗していることを表し完成を意味するものではなく、引き続き向上を目指す。BやCになってしまったものは特に力を入れていく。)・ Bと評価されることは悪いことではなく、それをどう改善、向上させていくかという取組がお客様に安心を与え、評価してもらえるものである。・ 施設についてであるが、開館から40年が経ち、いろいろと老朽化が進んでいるのではないかと感じる。今後、修繕すべきと考えるものがあるか。また、建て替え等の大きな計画はあるか。(現時点では問題はないが、美術館にとって作品の保管に影響を及ぼす防水などが重要と考える。建替え、大規模改修などの計画は現時点ではない。作品や資料を保管するスペースの不足や断熱性が課題になっている。) <p>()内は美術館の応答</p>
---	---